

空振り無しのハンマーベース（中学年） ～よい実践は真似をする～

日田市立高瀬小学校 岩崎 敬

ベースボール型ゲームを行う際に私が気にしているのが、苦手な子が人前でミスすることです。プロ野球選手でも、甲子園でプレーする高校生でも、エラーやチャンスでの三振などがあると目立つものです。ましてや、いろいろな子どもが参加する体育授業。技能や体力の有無にかかわらず学習内容の工夫・改善が大切です。

今回はいいアイデアが浮かばなかったため、熊本大学附属小学校の磨田慎太郎先生が行ったハンマーゲームのアイデアをお借りしました。

みんなこんなのが理想



ティーの数が少ないと
みんなの視線が気になる子が



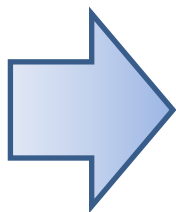
コーン+ペットボトルで簡易ティーを
多数作成



ミスの目立ちにくい環境づくり

これまで気泡緩衝材を巻いたバットなど、ボールに当てやすいバットも作っていました。

それでももう一工夫してみたくて



ムチ動作・反動・捻転



一部ガムテープで止めてハンマー作成



私はボールネットを準備

ボールを蹴るキックベースではなく

バッティング動作に近いハンマーベースに



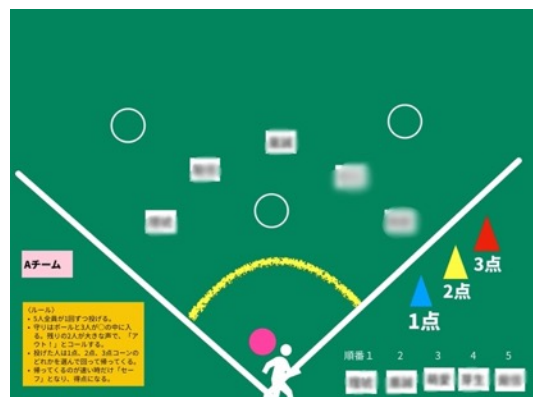
投げ損ないは出てきますが
空振りはありません

とうとう出た！ 相手の守備位置を考えた

流し打ちならぬ、流し投げ



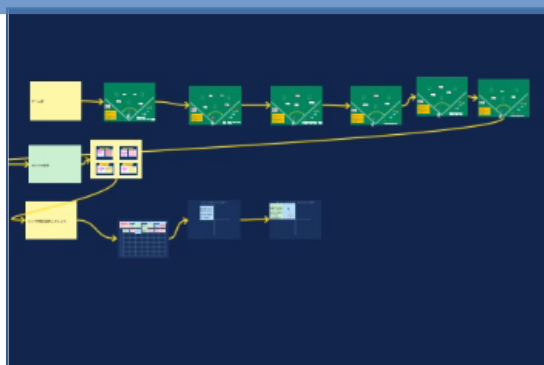
そして岩崎は、いつものようにタブレット端末に作戦ボードを一斉送信。



チームごとに共有ノートを作っているのでも、作戦会議は帰宅後もするという習慣が自然につき始めました。授業中の運動従事時間も、おかげで以前より増えています。



私たちが毎回授業準備をしているように
子どもたちもチームで毎回試合の準備を



子どもの実態に合わせてつつ
よい実践は真似をする
そこからまた新たなものが生まれてくる